



Collection Exhibition  
Kibo Kodama Collection  
Traditional and Innovative Japanese Paintings

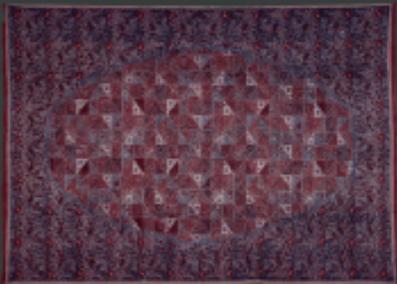
広島県立美術館 秋の所蔵作品展

# 小特集 児玉希望

伝統と革新の日本画



本館所蔵「白の彫刻」  
1972年 児玉希望



白皮、二色ペンダラム等蔵「幾何学色のペンダラム文型紙」17.18世紀 小島、手紙蔵高島文



白川一太郎「白川」1950年 児玉希望



船橋「船橋」1952年 児玉希望

2017(平成29)年

9月13日[水]—12月24日[日]

2階 展示室

開館時間: 9:00 - 17:00

※10月22日までの金曜日は20:00まで、10月23日以後の金曜日は19:00まで開館

※入館は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日

※特別展会期中・祝日・振替休日を除く

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円、高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※( )内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

## 【概要】

### 広島県立美術館 秋の所蔵作品展

#### 小特集 児玉希望 伝統と革新の日本画

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、来年は開館50周年の節目を迎えようとしています。

開館以来、多くの皆さまからご寄贈などのご協力を得て、現在のコレクション総数は約5,000点。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本及びアジアの工芸」を掲げ、とくに近代絵画と工芸作品が充実しています。

今年度の所蔵作品展は、コレクションを様々な角度から捉えた企画をとり揃え、4期に分けて開催いたします。春と秋には当館で複数の作品を所蔵する重要作家にスポットライトをあてる「小特集」コーナーを設け、今期は広島県安芸高田市ゆかりの日本画家・児玉希望の作品が並びます。当館所蔵作品の数々と共にお楽しみください。また、所蔵作品を紹介する2種類のミニガイドブックも鑑賞の手引きとしてご利用ください。

何度でも見たい、と言っていただけの展示をめざし、職員一同、今後も努力を重ねていくことで、美術館を支えてくださる皆さま方への感謝の気持ちを表してまいります。冬、そして来年度の所蔵作品展もどうぞお楽しみに。

## 【内容】

### カタチに託された“こころ”をもとめて

ルネッサンスの2大巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチとミケランジェロ・ブオナローティ。ともに万能の芸術家と呼ばれ、絵画にも彫刻にも活躍しましたが、実は犬猿の仲だったと言います。そのせいか、レオナルドは絵画の優位を語り、ミケランジェロは彫刻の優越を誇ったと言います。もちろん、絵画にも彫刻にも長所があるのですが、ミケランジェロは「こちらを向いた人物の背中側を描くことができない」ことが絵画の弱点だと指摘したそうです。対象を全ての方向から描こうとする彫刻家らしい言葉ですね。ミケランジェロの時代から500年を経た現在、彫刻家を取り巻く環境や、表現手法は大きく変わりました。しかし現代の彫刻家も、絵画では描ききれない何かを表現するために彫刻に取り組むんだという心意気は、巨匠たちの時代と少しも変わりません。

作家たちは、彫刻という表現によって、何を伝えようとしたのでしょうか。それぞれの作品に込められた作家の気持ちに思いを巡らせて頂ければ、彫刻という表現を、より一層楽しんでいただけることでしょう。是非、ゆつくりとご鑑賞ください。



水船六洲 《はつ雁抄》  
1972年 木、彩色

# press release

広島県立美術館 秋の所蔵作品展  
小特集 児玉希望  
伝統と革新の日本画

## 1920～30年代の芸術運動

西洋美術の歴史をふり返れば、1920～30年代は、第一次世界大戦の影響や反省から、前衛的な芸術運動が数多く生まれた時代です。当館は大きな変革をもたらされたこの時期を重視し、「1920～30年代の美術作品」を収集方針の一つとしました。この展示室では西洋美術作品を通してふたつの大戦の間に欧米で興った芸術運動をご紹介します。

とりわけシュルレアリスムは、この時期における最も重要な芸術運動といえます。理性の世界を忌み嫌い、その対極にある無意識や夢の世界を表現しようと試みた運動で、代表的画家としてサルバドール・ダリが挙げられます。当館が所蔵する《ヴィーナスの夢》は、女神ヴィーナスが生まれ故郷である海の底を夢見ている様子が描かれた、シュルレアリスムらしいテーマの作品です。

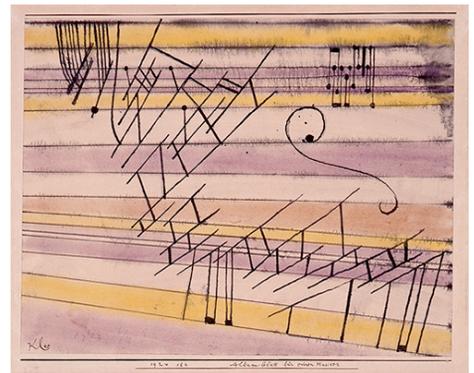
また、キュビズムという芸術運動は、三次元の世界を幾何学的な形に還元して二次元上に構成しようとするもので、この運動は、第一次世界大戦前にパブロ・ピカソらによって追求され、抽象美術の礎となりました。ピカソの代表作のひとつである《フランコの夢と嘘》のほか、キュビズムから影響を受けた作家たちの作品も展観します。

時代に相応しい新しい芸術を作り出そうとした19名の作家たちによる多様な表現をお楽しみください。

## 所蔵品でたどる日本洋画

江戸時代の終わり頃、油絵をはじめ、それまでの日本には無かった描画技法が海外から紹介されるようになりました。陰影を駆使した立体的な表現は、機械工学の解説図などに適していて、西洋の進んだ技術を取り入れようとしていた日本では盛んに使われるようになります。やがて工学に限らず幅広い分野で、さまざまな目的に使用されるようになったこの技術は、西洋から伝わった画法ということで西洋画と呼ばれ、さらに縮まって洋画とも呼ばれるようになりました。それから200年、徐々に日本の中に溶け込み、借り物の技法ではなく、日本人が普通に絵を描く材料、技法と感じられるまでになり、さらに新しい表現へと発展しています。

この展示は、油絵という技法を選んだ作家たちの、西洋画と呼ばれた初期の作品から、現代美術と呼ばれるような最近の作品までを、所蔵品によってたどってみようとするものです。作家の素材に対する欲求を受け止めて、全く違った表情へと変化する油絵具。時代ごと、作家ごとに異なる魅力を発揮する、その多彩さをお楽しみください。



パウル・クレー 《ある音楽家のための楽譜》  
1924年 インク・水彩・紙



松本竣介 《車庫近く》 1942年 油彩・画布

# press release

広島県立美術館 秋の所蔵作品展  
小特集 児玉希望 伝統と革新の日本画

## 小特集 児玉希望

### 小特集 児玉希望 伝統と革新の日本画

このたびの展示では、大正、昭和の日本画壇を牽引した児玉希望(1898~1971)を特集します。1970年頃に作者本人から寄贈を受けた100点を超える作品の中から、希望の画業を展観するものです。

希望は、現在の広島県安芸高田市に生まれました。二十歳の頃、川合玉堂の主宰する長流画塾で日本画の修業を開始します。以降古典研究に基づく山水画や花鳥画、歴史画を描き、次第に頭角を現します。

戦後は、「日本画滅亡論」が画壇を揺さぶり「日本画」の存在意義が問われるなか、色鮮やかな洋画的表現や抽象画にも見える水墨画によって、日本画の革新を目指します。また、後進の育成に熱心に取り組み、その門下からは奥田元宋(1912-2003)や佐藤太清(1913-2004)など、現代日本画壇を代表する画家を輩出しました。

希望の50年余りにわたる画業を振り返ると、一人の画家の手によるものと思えないほど作風が変化しています。時代時代に向き合い、圧倒的な画力とその研鑽によって日本画の伝統をいかに引き継ぐかという問いに答え続けた希望の格闘の軌跡をご覧ください。

### インドの古更紗

今期は当館の工芸コレクションから、インドの古更紗の優品14枚を一堂にご覧いただけます。当館は、インドの更紗46枚を所蔵しており、世界的に貴重な作品も含まれています。

インドでは染織のさまざまな素材、技法、文様が発展し、中でも色鮮やかな更紗は古今東西の人々に愛されてきました。その起源は明らかではありませんが、早くも紀元前2000年にさかのぼるパキスタンのモヘンジョ・ダロ遺跡から、茜染めの木綿が発見されています。更紗を輸入することに飽きたらないジャワやペルシア、ヨーロッパや日本などでは、模様染めの布が作られるようになり、手描きや木版、ろうけつ染や銅板プリントといった多様な技法が展開してきました。

インド国内向けの金銀きらめく更紗に加え、輸出用としてインドネシアやヨーロッパへ船載された布は、世界の移り変わりとともに更紗が歩んできた道を示しています。華やかな布を通して、歴史をめぐる旅に出かけましょう。



児玉希望 《暮春》 1930年 絹本彩色



インド、コロマンデル海岸 《菱形染分パッチワーク文更紗》  
17-18世紀  
木綿、手描媒染防染

## press release

### ギャラリートーク

「伝統と革新の日本画家・児玉希望」をテーマに秋の所蔵作品展の見どころをご紹介します。

日時:10月13日(金) 11:00～(45分程度)

場所:2階 展示室

講師:神内 有理(当館学芸員)

※ 申込不要、要入館券。会場入り口でお待ちください。

※ 高校生以下、65歳以上の方は無料です。学生証および年齢のわかる証明書をご提示ください。

### 友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時:平日14:00~/土日祝11:00～、14:00～(1時間程度)

場所:2階 展示室

参加料:無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

※12/26～1/4は休み。

## 【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、  
当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで  
ご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

### 問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail m-kaminishis4677@pref.hiroshima.lg (上西宛)

担当 学芸課 藤崎 綾

総務課 広報担当 上西 真由美 一色 直香